

2023. 1. 25

高齢の者権利擁護を考える集い 高齢者を守る制度とするために

～家族の立場から～

北海道認知症の人を支える家族の会
事務局長 西村 敏子

1

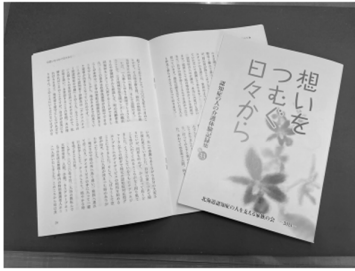
認知症の人を支える家族の会について

・昭和62年6月に創立

まだ認知症（当時痴呆症）の理解も情報も社会的な支援もなかった時代から家族同士で励まし合い、支え合い、認知症の理解を求めて各地で活動している団体で、道内には43支部がある。

2

家族の会の活動



認知症 早期発見を 札幌
家族の会 チラシ配りPR

世界アルツハイマーデー(21日)に向け、北海道認知症の人を支援する家族の会は15日、札幌駅前前で認知症への理解と早期発見を呼びかけるチラシを配った。

チラシには、アルツハイマー病と診断された後も会社で仕事を続ける青森県の男性(56)の体験談などを掲載。オレシ色のTシャツを着た同会の会員が市民らに手渡した。道内の

認知症の人は昨年3月時点で14万人と、2008年の調査に比べ2万人多く、年々増えている。

同会の飛嶋弘子副会長は「早めに受診すれば支援する人も早く見つかると、不安なことがあれば、かかりつけ医に相談を」と話している。

(二十五日 宇)



2020年(令和2年)2月18日(火曜日)

本紙連載「認知症を知ろう」に反響

コールセンターに相談急増

悩む人の多さ浮き彫り

「認知症に関する相談は、急増しています。認知症の症状や診断方法、介護の仕方など、さまざまな相談が寄せられています。認知症の症状や診断方法、介護の仕方など、さまざまな相談が寄せられています。認知症の症状や診断方法、介護の仕方など、さまざまな相談が寄せられています。」

北海道認知症コールセンター
011-204-6006
(平日午前10時～午後3時)

<相談事例>

- ◎通帳がなくなると何回も銀行や郵便局に電話を掛けるので相手方から対応を迫られる
- ◎認知症と診断されたらお金を下ろせないのか
- ◎1000万円以上の貯蓄がある場合、家族が後見人になれないのか
- ◎親の財産を巡ってのもめごと など

成年後見制度に関する会員の意識調査しました

- ◇期 間 11月17日から12月15日
- ◇対 象 会員100名
- ◇回収率 84%

5

1. 回答者自身について

- ・現在介護中が62%、女性が76%
- ・後期高齢者が48.8%
- ・子供がいないが28.6%
- ・彼介護者は30.4%は実母、27.5%夫、妻、実父。
複数介護をしている方もいた。
- ・認知症と診断されている人は74.7%

6

2 成年後見制度について

《内容について理解》

	十分理解	理解	少し	言葉を聞いた程度	全く分からない
法定後見	2.4%	20.2%	41.7%	22.6%	13.1%
任意後見	2.4%	19.0%	33.4%	20.2%	25.0%

- ・利用している(利用した) 4名
- ・利用することに決めた理由 事例から
- ・利用して良かった・・・安心できる 相談相手になってくれる
- ・利用して困った・・・費用かかる 本人のために本人のお金を使えない 報酬が自由に決められない 使い勝手が悪い

7

事例1

60代男性 妻アルツハイマー型認知症

夫婦二人で子供なし。信頼できる親族、知人なし。万一男性が死亡した場合、財産をほぼ全額妻が相続するが、財産を管理する人がいない。弁護士に相談した結果利用している。任意後見制度も利用中。

弁護士以外どこに相談したらよいかどこが信用できるのかわからなかった。費用が高い。とても難しくわからない点が多い。途中でやめられない。後見人を変えられない。家族が自由にお金を使えない。

現状制度は身寄りがないなどのみ有効だとは思いますが改善が必要である。

8

事例2

70代女性。姉 認知症

後見人制度ができて2年目から利用。何もわからなかった。当時、専門家を頼んだほうが良いのか裁判所に相談したら、妹さんでいいとのこと。

同居しているので、介護保険の利用も自由にできるので、専門家を頼まなくてよかった。安心して銀行へいける。ただ、生活に関係ないお金は出し入れできないのが、デメリットと感じている。

9

《後見制度を利用していない(しなかった)理由》

家族間でできている	53.8%
制度の内容及良くわからない	23.8
本人が管理できている	13.8
財産がない	12.5
提出書類が多く手続きが難しそうだ	11.3
後見人の報酬が高く、自由に報酬額を決められない	10.0
財産を自由に使えない	10.0
誰を選べば良いかわからない	10.0
初期費用が高い	7.5

10

- 任意後見制度を利用したくない:55%
 - 年金収入だけで余裕がない
 - 家裁の申立てなどの手続きが複雑である
 - 後見人の報酬が発生し財産状況や生活状況が外に出ることに抵抗がある
- 市民後見人は知らない:70%
- 法人後見について知らない:64%
- 日常生活自立支援事業は知らない:52%
- あなた自身、将来自分や家族が認知症になるかもしれないと考えた時の財産管理について
 - 制度を利用したい(11.8)
 - 本人の預貯金管理や不動産の財産処分ができた時点で考えたい(25.0)
 - よくわからないので利用しない(11.8)
 - 今は考えたくない(19.3)
 - その他(32.1)

11

今後に期待すること

1. 利用しやすい制度に見直し
2. 日常生活自立支援事業の拡充
3. もっと普及啓発を
4. 障がいや病気への理解

12